

「小泉八雲 五感でとらえた明治日本」小泉凡さん



4歳で母と別れ、16歳で左目を失明し、その後、赤貧と単身移民、感染症の罹患など、種々のカタストロフィ（悲劇）を経験した小泉八雲は、人一倍五感を研ぎ澄ませて、民衆の声音に耳傾け、見えざる世界を探求してきました。

八雲は、ニューオーリンズやカリブ海のマルティニークでは、怪談採集とともに、五線譜を携えて町を歩き、クレオール音楽を採集。来日後、鳥取県の下市で聴いた盆踊り歌に、「大地の美しい叫び」を生み出す夏虫の合唱との調和を感じました。

本日の演目である「神々の国の首都」は、八雲が松江に与えた美称。松江の朝は「枕の下から響く米搗きの音」「洞光寺の鐘の音」「近所の地藏堂の勤行の声」「早出の物売りの呼び声」「朝日を拝む柏手の音」「大橋を渡る大舞踏会の足音のような下駄の響き」で始まり、夜は「うどんやそば、飴湯の振り売りの声」「人相占い、恋の辻占の呼び声」「舞妓や芸者の太鼓の音」「滝のような大橋の下駄の響き」「月を拝む柏手の音」で暮れゆく描写します。

後に、民俗学者の柳田國男は『明治大正史世相篇』の中で、世相の変化は目より、むしろ耳で感じるべきだと説いています。八雲も柳田も、その町の特徴は、目に見える要素とともに、耳に響く音によって形づくられると考えていたのです。その意味で、八雲は現代のサウンドスケープ（音の景観）の感覚をもって町を歩いていたといえます。

公演プログラムより抜粋

(民俗学 島根短期大学教授 小泉八雲記念館顧問)



新井純 語り



野津真亮 チェロ



紫竹芳之 尺八 笛 鳴物



森反ナナ子 ピアノ



安倍由美子 ヴァイオリン

- 原作 小泉八雲
- 訳 池田雅之
- 作曲 岩間麻里
紫竹芳之
- 照明 光田卓郎
- 音響 大貫誉
- 録画 シャイズ企画
- 撮影 高橋和久
- 協力：小泉八雲記念館
八雲会
新宿歴史博物館
森安恵
高間蘭子
石原昇
倉科園子

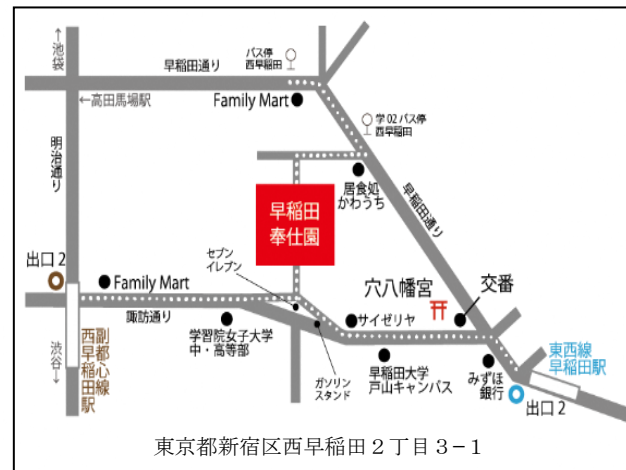


「賢治〜プレヒトを巡る旅」「小泉八雲の怪談」を皮切りに、「オツベルと象/宮沢賢治の世界」 夏目漱石 「夢十夜」「邂逅 八雲から漱石へ」小泉八雲 「神々の国の首都」 柳田國男「遠野物語」などを発表。サロンコンサートも 不定期で開催 2020年12月22日〜24日「遠野物語」横浜演劇鑑賞協会招聘公演。

<https://www.morinootosha.com/>

<https://www.facebook.com/morino.otosha>

早稲田奉仕園スコットホール
・東京メトロ 東西線
早稲田駅より (徒歩5分)
・東京メトロ 副都心線
西早稲田駅より (徒歩約8分)
・高田馬場駅よりバス便あり
<https://www.hoshien.or.jp/>



料金： 前売り 3500円 当日 3800円
学生 2500円 小学生 1000円
・三菱UFJ銀行 鷹の台出張所
森の音舎 (普通) 0109492

《ご予約・お問い合わせ》
morinootosha@gmail.com
080-5416-8201(Tel) 042-343-1253(Fax)
・10/2出「八雲が愛した日本の面影V」
於 東大和ハミングホール小ホール
14時30分開演
2公演通し割引あり

